

営農情報 第5号

※5月12日田植えコシヒカリの場合

令和8年7月 日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 コシヒカリの生育状況

- ・平年に比べ、草丈は並み、 m^2 当たり茎数は多く、群落葉色はやや淡く、葉令の展開は0.3葉早くなっており、出穂期は7月25日頃と予想されます。
- ・現在の生育の進みから、追加穂肥や病虫害防除、刈取り等が遅れないよう **作業計画の前倒しを検討してください。**

表 コシヒカリの生育状況（7月6日調査）

	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂形成期	出穂期
		(本/株)	(本/ m^2)				
令和8年	71.4	24.9	527.5	12.0	3.8	7月5日	(7月25日)※2
令和7年	72.4	20.6	429.5	11.8	3.9	7月10日	7月30日
平年※1	68.3	22.3	470.6	11.7	4.0	7月10日	7月31日

※1 アルプス米標準田 H28～R7の平均値 ※2 カッコ内は推定値

2 コシヒカリの穂肥の目安

参照ページ:p33

高温少雨の日が続くと予想される場合は、積極的に追加穂肥を施用しましょう。

(1) 基肥一発肥料の場合

葉色が淡い場合は、稲体の活力を維持するため、追加穂肥を施用しましょう。

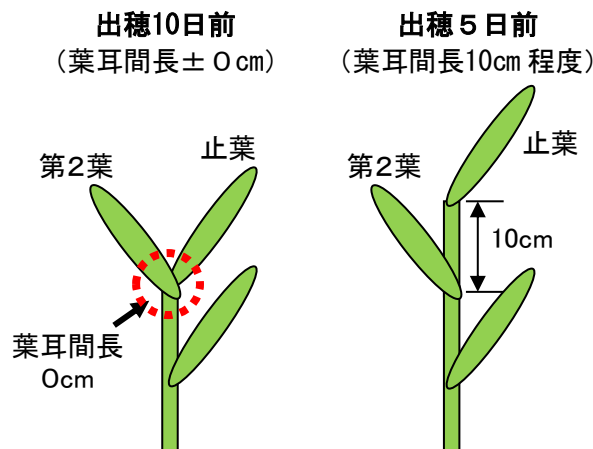
●追加穂肥の目安

指標 出穂7～10日前（7月15～18日）の葉色が4.0（砂壤土4.2）以下の場合

施用時期 出穂7日前（7月18日）頃
（砂壤土の場合10日前（7月15日）頃）

肥料 追肥3号

施用量 5～7kg/10a（砂壤土7～10kg/10a）



【YouTube】
11 穂肥散布の
ポイントと
注意点



【YouTube】
12 品種別の
穂肥施用時期
と施肥量

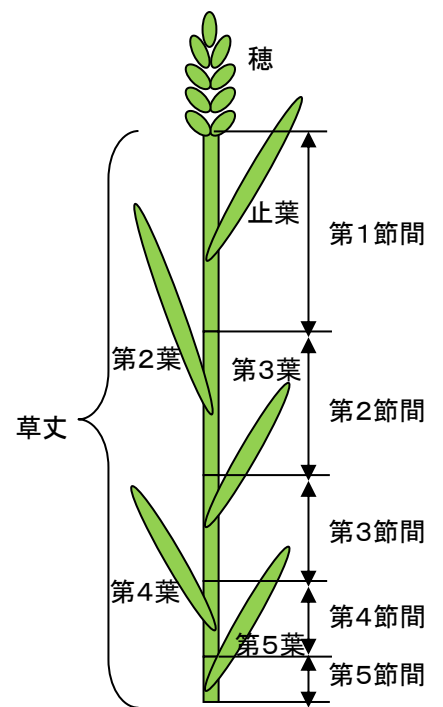


(2) 分施肥系の場合

●生育量別穂肥の目安（肥料：追肥3号）

田植日や圃場条件によって施用時期が異なります。
必ず葉色、幼穂長を確認してから施用しましょう。

生育量	1回目穂肥（幼穂長1.5cm）					2回目穂肥	
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)
理想	82cm以下	3.6	葉がピンと立つ	7/12頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10～13kg (砂壤土13kg)
やや過剰	82～87cm	3.8程度	葉がやや垂れ気味	7/14頃	7kg以内		10kg
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ	施用しない		出穂7日前 (7/18頃)	7～10kg



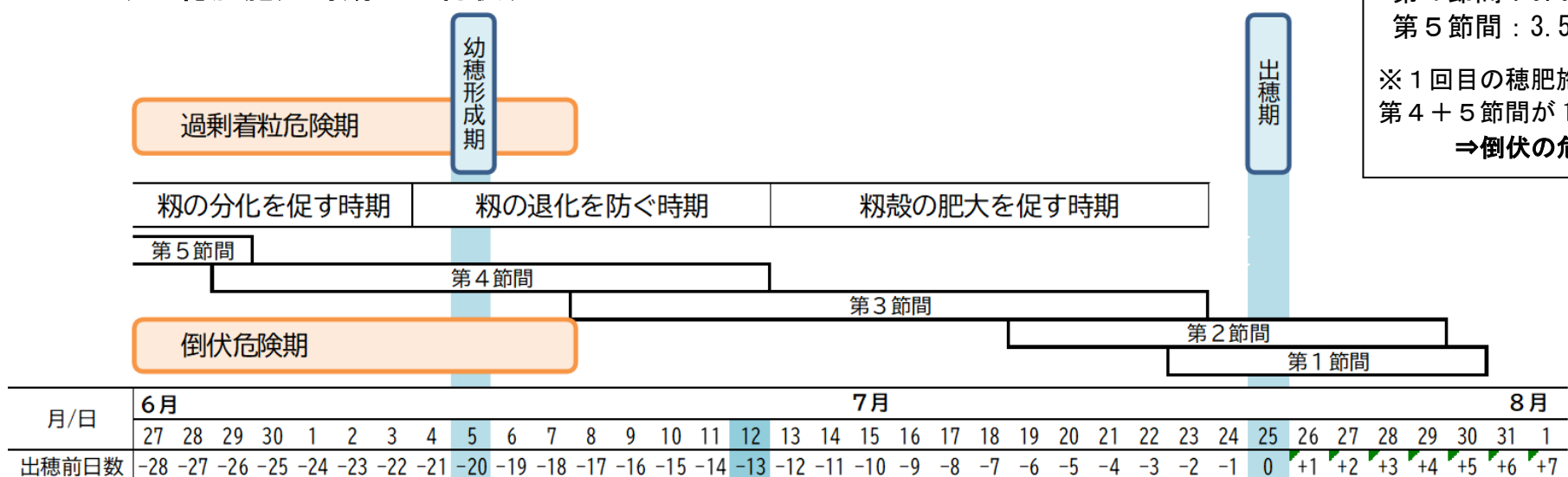
【イネの葉と節間】

●目標とする節間の長さ

第4節間：9.0cm 以内
第5節間：3.5cm 以内

※1回目の穂肥施用時の
第4+5節間が15cm以上
⇒倒伏の危険大！

●コシヒカリの穂肥施用時期の生育状況



		<幼穂形成期の姿>		<分施肥系1回目穂肥時期>		<分施肥系2回目穂肥時期>		<出穂期の姿>	
茎数	草丈 cm	72cm		82cm				104cm	
	本/ m^2	470本		430本				400本	
	本/株 (60株植)	26本		24本				22本	
	本/株 (70株植)	22本		20本				19本	
葉色	葉色	3.8		3.6				4.3	
	幼穂長	2mm		1.5cm		15cm		18.5cm	
節間	第4	2cm		9cm		9cm		9cm	
	第5	3.5cm		3.5cm		3.5cm		3.5cm	

穂揃期に
4.2～4.5
(砂壤土4.5)
になるように

3 水管理

参照ページ:p32～34

【YouTube】
10 中干し後の
水管理



【YouTube】
15 水稲の登熟
期間の水管理



今年の夏も暑くなると予想されています。生育ステージに応じた適切な水管理を徹底しましょう。

●生育ステージに応じた水管理

生育ステージ	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5～7日前
水管理	飽水管理	湛水管理	間断かん水	
水 量				

出穂までは『飽水管理』
足跡の水がなくなる前に入水し、常に圃場が湿っている状態を保ちましょう。

足跡の水を切らさないように

出穂後 20 日間は『湛水管理』
湛水管理により収穫期近くまで葉色が濃く、稲の活力が維持され登熟が向上します。

田面が出ないようにね

収穫前まで『間断かん水』
出穂 20 日後から収穫の 5～7 日前までは間断かん水で稲体の活力を維持しましょう。

こまめな水分補給で最後までがんばるよ!

『飽水管理』 入水後→自然落水→入水（出穂始めまで繰り返す）



「田面の高い部分が隠れる程度まで入水」 「この状態になったら入水」 「この状態は乾きすぎ」

※幼穂形成期から出穂期にかけては、稲の茎葉からの蒸散が多くなる時期で、水分を多く必要とします。
※圃場が乾き過ぎると極端に葉色が下がり、稲体の活力が低下するので、湿潤状態を保ちましょう。

- ・かけ流しを止め、地域全体で計画的に用水を利用することで、下流域まで十分に水が行き渡るよう努めましょう。
- ・フェーンが予想されたら、水不足にならないようあらかじめ入水しましょう。

4 コシヒカリの病虫害防除

参照ページ:p35～36

【YouTube】
14 本田基本防除



- ・今年もカメムシ類が管内全域でかなり多く発生しています。防除は遅れず、適期に確実に実施しましょう。
- ・圃場への侵入を防ぐため、薬剤は畦畔にもかかるように散布しましょう。
- ・防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけないでください。

令和8年度 斑点米カメムシ類の確認地点率と捕獲頭数 (畦畔・雑草地 アルプス管内 6月18～24日調査)	
調査地点数	45ヶ所
確認地点率	91.1% (R7: 93.9%)
捕獲頭数	平均 23.9頭 (R7: 22.5頭)



カメムシによる斑点米の被害



防除時期	紋枯病の発生が多い圃場	穂揃期	傾穂期	カメムシが多い圃場
	7月15日（出穂10日前頃）	7月28～30日頃	8月4～6日頃	傾穂期後
粉剤体系	バリダシン粉剤DL 3～4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)	トレボン粉剤DL 3～4kg/10a (収穫7日前まで)
液剤体系 《通常散布》	バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで)	ラブサイドK2フロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 1,000倍 (収穫7日前まで)	トレボン乳剤 1,000倍 (収穫14日前まで)
	散布量: 150L/10a	散布量: 150L/10a	散布量: 150L/10a	散布量: 150L/10a
液剤体系 《空中散布》	バリダシンエアー 8倍 (収穫14日前まで)	ラブサイドK2フロアブル 8倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 8倍 (収穫7日前まで)	トレボンエアー 8倍 (収穫14日前まで)
	散布量: 0.8L/10a	散布量: 0.8L/10a	散布量: 0.8L/10a	散布量: 0.8L/10a
対象病虫害	紋枯病	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類(※粉剤のみ)	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ(※空中散布は除く)	カメムシ類

農作業中の熱中症・事故に注意！ 高温時の作業を避け、こまめな休憩・水分補給を！

《 営農情報第6号の発行予定は、8月7日頃です。》